

事業者温室効果ガス削減報告書概要（第二計画期間） 第 1 年度分

1 事業所の概要

事業者の名称	株式会社 仙台村田製作所		
事業所の名称	株式会社仙台村田製作所		
事業所の所在地	宮城県仙台市泉区明通3丁目2－6		
主たる事業	電子部品・デバイス・電子回路製造業		
事業者の該当要件	<input type="radio"/>	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針	エネルギー使用設備の設置・更新に当たっては、エネルギー消費効率に優れた機器を導入する。 再生可能エネルギーの利用を推進する。		

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの排出状況及び削減目標・非化石エネルギーの使用割合目標	基準年度	2022 年度	基準排出量	134 t-CO ₂	基準原単位	0.04426
	目標年度	2025 年度	目標排出量	130 t-CO ₂	目標原単位	0.0429322
			削減率	3.00 %	削減率	3.00 %
		非化石エネルギーの使用目標割合	非化石電気	100.00 %	その他非化石エネルギー等	0.00 %
温室効果ガスの排出状況	第1年度	2023 年度	排出量	58 t-CO ₂	排出原単位	0.01629
			削減率	56.71 %	削減率	63.19 %
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	100.00 %	その他非化石エネルギー等	0.00 %
	排出量等の増減理由		DR発動がなかったため、ガス焚き吸収式冷凍機の稼働が無かったため。			
	第2年度	2024 年度	排出量	t-CO ₂	排出原単位	
			削減率	%	削減率	%
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	%	その他非化石エネルギー等	%
	排出量等の増減理由					
	第3年度	2025 年度	排出量	t-CO ₂	排出原単位	
			削減率	%	削減率	%
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	%	その他非化石エネルギー等	%
	排出量等の増減理由					

3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	91 %	目標年度	91 %
	第1年度	91 %	実施状況の説明等	計画時に実施済だった項目は変わらず実施できている。
	第2年度	%	実施状況の説明等	
	第3年度	%	実施状況の説明等	

選択対策の実施状況	項目	実施状況
	生産性管理	実施済
	熱源設備 冷却水温度の適正管理	実施済
	熱源設備 冷却水の水質管理	実施済
	冷温水ポンプの回転数制御、自動流量制御	実施済
	圧縮空気系統の保全管理	実施済
	ポンプ、給水系統の保全管理	実施済
	ファン、ブロワ、給気系統の保全管理	実施済
	変圧器の負荷率管理	実施済
	デマンド管理	実施済
	負荷平準化	実施済
	窓の断熱性向上	実施済
	エコドライブ教育実施	実施済

その他の対策の 実施状況	項目	具体的な取組内容	実施状況
	環境マネジメントシステムの導入	E H S（環境・安全衛生）の取り組み	実施済
	廃棄物削減対策の実施	分別、リユース、リサイクルの実施	実施済
	環境教育・学習の実施（従業員以外を対象にしたもの）	小学校などを訪問しパソコンを使用した分解分別による3 Rなどの環境教育・学習を実施。	実施済
	森林の保全・緑化の推進	構内緑地の整備	実施済
	グリーン調達の実施	環境負荷低減の取り組みに積極的なサプライヤーを優先的に選択、環境影響の小さい原材料や部品、材料の調達	実施済
	SBTやRE100等の国際的な気候変動イニシアティブなど脱炭素経営への取組	株式会社村田製作所がRE100に加盟し、「2050年の再エネ比率100%」を目標に向けて再エネの利用促進に取り組んでいる。この一環で、仙台村田製作所は、2022年度から再エネ由来電力の購入と自家消費型太陽光発電により、使用する電力の100%を再生エネ由来電力とした。	実施済
	D R（デマンドレスポンス）の実施	2020年度から300kWのDR契約をしている。	実施済
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	蓄電池利用で需給調整市場に参画し電力需要平準化に貢献する。	未実施
	廃棄物削減対策の実施	溶剤廃液（IPA）を有価売却し、廃棄物の削減を行った。 水混入による濃度低下を防いだことで蒸留再生処理が可能となった。	実施済